

令和3年度 「家庭教育支援チーム」の活動の推進に係る 文部科学大臣表彰



表彰活動一覧



令和4年2月
文部科学省

はじめに

家庭教育は、すべての教育の出発点であり、子供の基本的な生活習慣や豊かな情操、自立心の育成、心身の調和のとれた発達を図る上で、重要な役割を担うものです。

一方で、ひとり親家庭の増加や地域のつながりの希薄化など、家庭を取り巻く環境の変化とともに、児童虐待や不登校など、子供の育ちをめぐる課題が懸念されています。こうした中、保護者が安心して家庭教育を行うために、家庭教育支援の重要性は一層高まっています。

このため、文部科学省では、地域における子育て経験者や元教員など多様な人材による「家庭教育支援チーム」の組織化の推進など、地域の実情に応じた家庭教育支援の取組を支援しています。

本冊子は、令和3年度「家庭教育支援チーム」の活動の推進に係る文部科学大臣表彰において表彰された、全国の「家庭教育支援チーム」31団体の活動を取りまとめたものです。

各チームにおける地域の課題解決に向けた取組や、効果的な支援のための連携、工夫などが盛り込まれた具体的な実践事例集となっています。

今後、広く全国の様々な地域において、家庭教育支援の取組を更に充実していくための御参考として活用いただければ幸いです。

文部科学省総合教育政策局
地域学習推進課家庭教育支援室

目次

No	都道府県名	市町村名(活動拠点)	「家庭教育支援チーム」の名称	頁
1	北海道	いわみざわし 岩見沢市	家庭教育なんでも相談「さあ来る」	2
2	青森県	かみきたぐんよこほままち 上北郡横浜町	横浜町家庭教育支援チーム(子育て応援推進委員会)	4
3	岩手県	みやこし 宮古市	特定非営利活動法人 ふれあいステーション・あい	6
4	秋田県	のしろし 能代市	能代市家庭教育支援チーム「あそびのひろば・ぱれっと」	8
5	山形県	しんじょうし 新庄市	家庭教育応援・ボランティア活動団体 アベルんち	10
6	福島県	やまぐんにしあいづまち 耶麻郡西会津町	家庭教育相談室「こころのオアシス」	12
7	茨城県	さしまぐんごかまち 猿島郡五霞町	五霞町家庭教育支援チーム	14
8	栃木県	もおかし、はがぐん、ましこまち、もてぎまち 真岡市、芳賀郡(益子町、茂木町、 いちかいまち、はがまち、なすぐんなががわまち 市貝町、芳賀町)、那須郡那珂川町	県東親育ちスマイルネット	16
9	群馬県	あんなかし 安中市	安中市家庭教育支援チーム「ビーイング」	18
10	埼玉県	はにゅうし 羽生市	NPO法人 羽生子育てサポートキャロット	20
11	千葉県	いんぼぐんさかえまち 印旛郡栄町	栄町家庭教育支援チーム	22
12	新潟県	とおかまちし 十日町市	十日町市家庭教育支援チーム「なかよしランド」	24
13	石川県	ののいちし 野々市市	野々市市家庭教育サポーター	26
14	福井県	えちぜんし 越前市	オレンジサポーターズ	28
15	岐阜県	かいづし 海津市	海津市家庭教育推進協議会	30
16	愛知県	ちたぐんたけとよちよう 知多郡武豊町	特定非営利活動法人 Smiley Dream	32
17	滋賀県	こなんし 湖南市	三雲小学校家庭教育支援チーム	34
18	京都府	そうらくぐんかさぎちよう 相楽郡笠置町	笠置地域学校協働本部 家庭教育支援チーム(ほっとサロン)	36
19	大阪府	ねやがわし 寝屋川市	寝屋川市家庭教育サポートチーム	38
20	奈良県	きたかつらぎぐんこうりょうちよう 北葛城郡広陵町	特定非営利活動法人 家族・子育てを応援する会	40
21	和歌山県	はしもとし 橋本市	橋本市家庭教育支援チーム ヘスティア	42
22	鳥取県	よなごし 米子市	米子市家庭教育支援チームとことこ・タムタム	44
23	岡山県	つくほぐんはやしまちよう 都窪郡早島町	家庭教育支援チーム「すくすくハート」	46
24	広島県	くれし 呉市	呉市教育会	48
25	山口県	ながとし 長門市	ふあみ	50
26	香川県	まるがめし 丸亀市	認定特定非営利活動法人 さぬきっずコムシアター	52
27	愛媛県	うわじまし 宇和島市	宇和島市家庭教育支援チーム	54
28	佐賀県	からつし 唐津市	特定非営利活動法人 唐津市子育て支援情報センター	56
29	大分県	ゆふし 由布市	はさま未来クラブ	58
30	宮崎県	こゆぐんつのちよう 児湯郡都農町	都農町家庭教育応援団「さん・さん」	60
31	沖縄県	なごし 名護市	名護市家庭教育支援チーム	62

【岩見沢市家庭教育支援チーム・ 家庭教育なんでも相談「さあ来る」】

チーム・活動の紹介

【岩見沢市家庭教育支援チーム・家庭教育なんでも相談「さあ来る」】は、岩見沢市教育委員会主催の「家庭教育指導者養成講座」を修了したメンバーで構成しており、2011年3月の結成以来、子育て中の保護者の悩みやストレスをできるだけ軽減できるよう、様々な支援を行っています。

名称には、「保護者の思いをしっかりと受け止めます、さあ、来て下さい」という思いを込めており、不安を抱えながらも日々子育てに奮闘している保護者の皆さんが、一時ホッとできる日だまりのような空間を提供したいと思って活動しています。

毎月1回実施している「家庭教育なんでも相談」では、メンバーは保護者の自由な話し合いや子どもの遊びを見守ったり、時には話し合いに加わって経験談を話すなど、子どもと保護者の心身の安定を一番に考えた支援を行っています。

チーム・活動の体制

◇活動開始年月：2011年3月

◇活動拠点：北海道岩見沢市 人口78,223人（令和3年11月末現在）

◇活動範囲：岩見沢市内全域

◇チームのメンバー：8人

（民生委員2人、元幼稚園教諭1人、家庭生活カウンセラー2人、チャイルドカウンセラー2人、調理師1人）

◇連携機関等：岩見沢市生涯学習センター「いわなび」

活動の対象

妊婦とその家族

乳幼児期

小学生

中学生

高校生以上

の子供を持つ保護者・家庭

その他

活動場所

幼稚園

保育所

小学校

中学校

高等学校

社会教育施設

福祉施設

保健センター等

企業

家庭（訪問等）

オンライン

その他（ ）

アピールポイント！！（特色のある取組）

〔行政との連携〕

岩見沢市教育委員会 生涯学習・文化・スポーツ振興課 学習活動支援係と常に連絡を取り合いながら活動をしています。話し合いをするうちに、共同による企画・運営が決定することもあり、現在は、岩見沢市教育委員会の「家庭教育推進事業」の一貫として、母親向け事業の企画・運営を行っています。そのほか、岩見沢市教育委員会や北海道教育庁空知教育局が実施する家庭教育指導者研修会に参加することで、チーム全体の資質向上を図っています。

また、岩見沢市生涯学習センター内の親子学習室を拠点として活動しています。絨毯敷き、冷暖房完備で、隣には託児室もあります。親子学習室と託児室がガラスで仕切られているため、「家庭教育指導者活用講座」などでは、保護者は講座を受けながら子どもの様子を見ることができるといった環境となっています。

参加者（支援を受けた方）の声・感想

- 子どもの体調やリズムに合わせて都合の良い時間に来ることができて利用しやすいです。
- 今は多くが核家族ですから、三世代交流の役割も果たしていると思っています。

その他の活動内容

「0歳児教育学級」

大型絵本の読み聞かせをしたり、親子でスキンシップが取れる遊びの紹介やキーボードの伴奏、手遊び歌などを実施しています。

「2・3歳児教育学級」

ボール遊びを行う講座を行いながら託児室での子ども達の見守りを実施しています。



「さあ来る」自主企画講座

「家庭教育指導者活用講座」

手で触れながら楽しめる布絵本の講座、親子で一緒に手作りができるおもちゃの講座、子ども連れでクラシック音楽を聴ける子育てミニコンサート、読み聞かせのための絵本講座等を実施しています。

保護者が気軽に相談やおしゃべりをする、子育て懇談「しゃべり場」も開催しています。メンバーがファシリテーターとして、保護者の皆さんの話をリードしながら進めています。

成果と今後の展望

〔成果〕

「家庭教育指導者活用講座」や「家庭教育なんでも相談」事後アンケートに「育児に対する理解が深まった」、「悩みや不安が解消された」といった感想が寄せられています。今後も、行政と連携して、保護者のニーズに応じて役に立てる事業を企画・運営するとともに、保護者の皆さんが笑顔で子育てができるように「日だまり」のような場を提供していきたいと思っています。

〔展望〕

子育てについて悩みや不安はあるけれど時間がない方など、必要な支援や情報を届けることができない保護者へのアプローチの仕方を考え、一層身近な存在として地域の子育てを支えていきたいと思っています。そのためにメンバーを増やし、活動を継続していきたいと考えています。

横浜町家庭教育支援チーム



(子育て応援推進委員会)



豆まき会の様子

私たち横浜町家庭教育支援チーム（子育て応援推進委員会）は、2009年から活動しています。対象は横浜町の子育て世帯で、幼児期から小学校までの家庭教育支援、子育て支援を目的としています。元保育士や子育て経験者を子育て応援推進委員とし、日常的に保護者の子育てに対するお悩み相談や幼児と一緒に楽しめる場（おひさまルーム）の運営を行っています。その他、年2回、子育て応援推進委員が小学生のいる全家庭への個別家庭訪問を実施しています。

青森県横浜町の紹介

人口：4,321人 世帯数：2,106世帯（令和3年12月現在）
（保育園2、幼稚園1、小学校1、中学校1）

横浜町は下北半島の付け根に位置する小さな町ですが、5月に咲く菜の花が有名で、ホタテ養殖や馬鈴薯（ジャガイモ）などの栽培が盛んな町です。国道沿いにある道の駅よこはま菜の花プラザは下北半島への入り口として、菜の花の季節には、多くのお客で賑わいを見せます。



- 活動拠点：青森県横浜町
- 活動範囲：町内全域
- 活動開始年月：2009年7月
- チーム構成員：8人（元保育士4人、子育て経験者4人）
- 連携機関等：町役場、小学校、児童センター



- 活動対象：乳幼児から小学生までの子どもを持つ保護者
その他子育て世帯（中・高校生含む）
- 活動場所：横浜町菜の花にこにこセンター
- 主な活動内容：おひさまルーム（イベントの開催、相談対応）
個別家庭訪問（アウトリーチ型支援）

■活動の詳細

おひさまルーム…親子が気軽に訪れ、子どもとのふれ合いを楽しむほか、親子で参加できるイベントを季節毎に開催しています。平日は、毎日開設し、子育て応援推進委員が常駐しているため、子育てに関するお悩み相談も常時受け付けています。



推進委員による絵本の読み聞かせの様子

【おひさまルームイベント（例）】

- ・身長体重測定
- ・ベビーマッサージ
- ・こどもの日のお祝い会
- ・クリスマス会
- ・豆まき会
- ・ひなまつり会
- ・みらいC a f e など



個別家庭訪問…小学生のいる全家庭を対象に年2回実施しています。子育て応援推進委員が受けた保護者の悩みや相談内容は、役場関係部局や小学校と情報共有し、予防的・早期対応型の支援に結びつけています。



おひさまルーム等で子どもが小さい時から面識のある子育て応援推進委員が家庭訪問を行っているため、保護者からは安心して受け入れられています。

■活動成果と今後の展望

これまで、おひさまルームの運営と個別家庭訪問を主な活動として行ってきました。「おひさまルーム」は、入園前の乳幼児を持つ保護者が子どもを遊ばせながら、子育て応援推進委員と話したり、イベントに参加しながら保護者同士の交流を深めたりするなど、子育ての「息抜きの場」にもなっています。

個別家庭訪問は、家庭訪問の結果を小学校や関係機関と共有し、連携しながら支援を進めることにより、地域全体で子どもを見守る体制づくりの一翼を担ってきました。

今後も、子育て応援推進委員の人材確保を行い、事業を継続するとともに、横浜町の子育て世帯のニーズに合わせた活動を続けていきます。

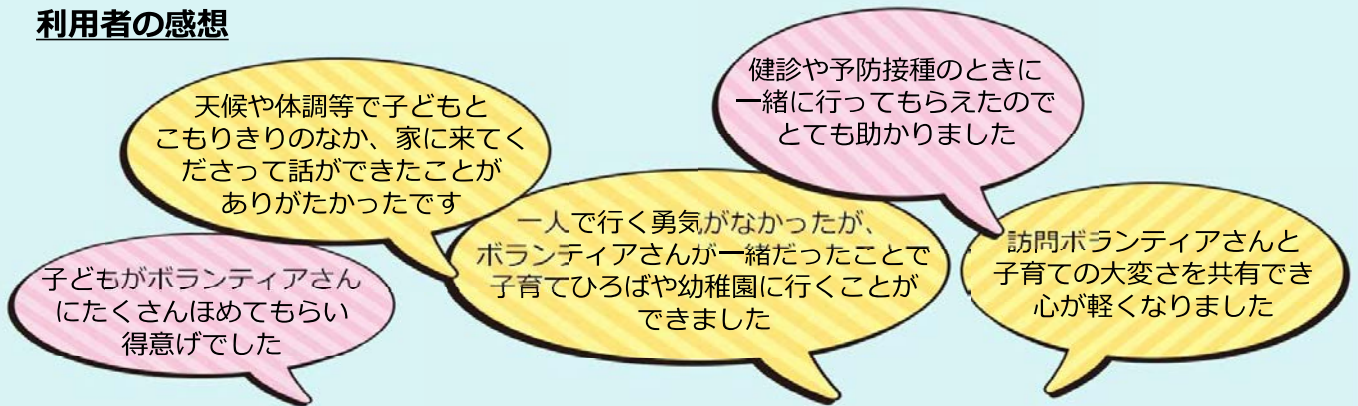


アピールポイント!!

●家庭訪問型子育て支援 ホームスタート

近くに頼れる人がいない…子どもと一緒に外出するのが大変…子育てに困り感があるご家庭に研修を受けた子育て経験のあるボランティアさんが訪問します。お話を聴いたり、一緒に家事や育児をしながら過ごすことで、元気を取り戻してもらえるよう支援します。保護者が元気になることで、子どもの幸せな育ちに繋がります。

利用者の感想



その他の活動内容

●ファミリーサポートセンターの運営

子育てを手助けしてほしい人と、子育てのお手伝いができる人を結ぶ、会員制の子育て支援ネットワークです。市から委託を受け運営しています。子育て中の家庭を地域で支えあいます。



●児童館の管理運営

満2歳から就学前の幼児を対象とした幼児保育と、小学1年生から6年生までの児童を対象とした学童保育の機能を併せ持った公設の児童館を、市の指定管理者として管理運営しています。



●小規模多機能型居宅介護事業

地域密着型サービスの事業所として運営しています。小・中学生のボランティアを受け入れたり、運動会を見学しに出かけたりと、地域の子どもたちとの交流を積極的に行っています。



●畑づくり・編み物教室

楽しみの場づくりとして実施しています。夏休みにはお子さんやお孫さんを連れて参加する方もいて、世代間交流の場にもなっています。



活動の成果と今後の展望

自主事業だけでなく、市の指定管理事業や委託事業を実施することにより市全域の子育て家庭と接する機会が得られました。その中で、困り感を持った家庭が多く、状況も様々であることがわかりました。これまでの支援では対応できないもどかしさを感じていたこともあって、ホームスタートの活動に踏み出すという選択をしました。利用された方々の表情が明るくなるのを見ると「思い切って始めて良かった」と思います。より気軽に相談できるよう電話やメールの他、LINEも導入しました。問い合わせだけでなく、支援終了後のフォローなども対応しやすくなりました。

今後は、子育てに悩む家庭が支援制度から取り残されないように、市や関係機関と連携を強めながら、訪問ボランティア養成とスキルアップの研修も充実させたいと計画しています。

能代市家庭教育支援チーム

「あそびのひろば・ぱれっと」



能代市家庭教育支援チーム「あそびのひろば・ぱれっと」は、地域の人々の中で子どもを育てることを目的に活動しています。

地域とのつながりが薄れていく中で、悩みや不安を抱えながら一人で子育てをしているお母さんに、息抜きを提供したり、一人一人の子どもに寄り添い、お母さんの悩みや不安に応えたりすることで、保護者の教育力を高めるための支援をしています。

活動の体制

- 活動拠点を置く市町村：能代市（人口48,950人（令和3年11月1日現在））
- 活動開始年月：2010年6月
- 活動拠点：秋田県能代市
- 活動範囲：能代市山本郡内全域（人口約75,000人）
- チームのメンバー：11人
（子育てサポーター4人、元幼稚園教諭1人、民生委員2人、子育て中の親1人、子育て経験者3人）
- 連携機関等：小学校、社会教育施設、福祉施設



活動の対象

- 妊婦とその家族 乳幼児期 小学生
- 中学生 高校生以上の子どもをもつ保護者・家庭
- その他（孫をもつ祖父母）

活動場所

- 幼稚園 保育所 小学校 中学校 高等学校
- 社会教育施設 福祉施設 保健センター等 企業
- 家庭（訪問等） オンライン

主な活動

「あそびのひろば」の開催

毎月1回、小さな子どもをもつお母さんたちが集まり、子どもと一緒に遊んだり食べたりおしゃべりをしたりする会です。絵本の読み聞かせや、体を動かす遊び、お母さんたちのコミュニケーション・ワークなどをします。

昼食はおにぎりのみ持参してもらい、豚汁など温かい汁物を季節に合わせて用意して一緒にテーブルを囲みます。個人的な相談活動も随時行っています。

参加者の声

- ・家にばかりいると、遊ぶこと自体なかなか大変なので参加できてとてもよかったです。
- ・自由にのびのびと過ごせるこの空間は、子どもにとっても私にとってもほっとひと息つける楽しい時間です。



季節の絵本紹介・本の読み聞かせ



母親との子育て悩み事相談



おしゃべりをしながら昼食会

その他の活動内容

「出前ひろば」の開催

未就学児等を連れて学校祭を見に来た保護者に息抜きの場を提供するとともに、保護者対応に係る先生方の負担を軽減するために実施しています。



「ぱれっと通信」の発行

月1回、チームの活動の紹介と周知のため、活動の様子や次回の活動予告、育児への一言アドバイスを載せた通信を作成し、子育て支援センターや認定こども園等に配付しています。

子育てに関する講座の開催

☆「インターネット安全利用講座」

インターネット利用の現代的な課題である「ネット利用の低年齢化」に対応した講座を、未就学児の保護者を対象に実施しました。保護者が知っておくべき、インターネット利用に関する知識を学んだり、インターネットを子育てに活用する方法やその注意について考えたりしました。

☆「孫かて講座」

子どもたちのお世話をすることの多い祖父母に対して、祖父母と孫が一緒に楽しめる、年代別のおすすめの遊びやおもちゃづくりなどを紹介しました。

成果と今後の展望

子育てに不安感や閉塞感などを抱えていた母親から、「ママ友ができてうれしかった」「スタッフにお話を聞いてもらい悩み事が解消できた」などの声が寄せられ、母親が気軽に遊びに来たり、相談できたりする身近なチームになってきています。

県等が実施している研修会にチーム員が参加し、一人一人の子育てスキルがアップしてきており、ニーズに対応した様々な活動をこれまで以上に実施していきたいと考えています。

家庭教育応援・ボランティア活動団体

アベルんち

絵本が大好きな仲間からスタートした「アベルんち」

みんなで集まって、絵本を中心にしながら、テーマに沿った話をします。そこから発展して、パステル講座、エコクラフト教室、トレッキング体験など、メンバーからの発信を大事にし、様々なことに挑戦し続けてきました。

そんな活動を通して、「お母さんが笑顔で元気であることが、家庭の笑顔と元気の元（素）となり、家庭の笑顔と元気が地域の笑顔と元気につながる」そう信じて進んできています。

アベルんちは、「つながり 出会い 発見」をキーワードに、これからも参加してくれるみなさん一人一人が笑顔になれるよう、交流の輪を広げていきます。

チーム・活動の体制

- ◇活動開始年月：2013年7月
- ◇活動拠点：山形県新庄市
- ◇活動範囲：最上地域全域
- ◇チームのメンバー：6人
- ◇連携機関等：健康福祉サポートかがやき
アベルんち農園
畑のハンモック



活動の対象

- 妊婦とその家族
- 乳幼児期 小学生 中学生 高校生以上 の子供を持つ保護者・家庭

活動場所

- 幼稚園 保育所 小学校 中学校 高等学校
- 社会教育施設 福祉施設 保健センター等 企業
- 家庭（訪問等） オンライン その他（代表者の自宅）

活動内容

「絵本de茶話会」

テーマに沿った絵本を紹介し合い、読み聞かせを通して参加者同士が交流を図っています。



「リースの会」

不登校や引きこもり、発達障がいなどで悩む子や、不安を抱える保護者の心の安定、交流、情報交換をする場として、定期的を開催しています。年に数回は、専門家を招き、直接話を聞くことができる機会を設けています。



参加者の声・感想から

- ・みなさんと話をすることで、元気になりました。
- ・偶然の再会があってうれしかったです。
- ・新しいチャレンジができて楽しいです。

他にも、図書館や幼稚園、様々なイベントでの読み聞かせ活動、地域の子育て支援事業への協力など、様々な家庭教育支援活動に携わっています。

- ☆「最上地域みんなで子育て応援団」正会員
- ☆ 山形県教育委員会発行「みんなで支え合おう！不登校児童生徒の相談支援ガイド」に掲載
- ☆ 公式Facebookで情報の発信

ワークショップ・お出かけツアー

写真講座、パステル講座、消しゴムはんこ講座など、参加者の興味・関心に沿ったワークショップを行っています。

講師は、アベルんちの運営スタッフや、繋がりのあるその道の先生が務め、おしゃべりに花を咲かせながらものづくりを楽しんでいます。

お出かけツアーは、本屋さんや地域の気になるスポットをみんなで見学します。



「イマール」

2021年12月より、どなたでもどうぞの「イマール」がスタートしました。「イマール」とは、「生きているだけでまるもうけ、生きているだけで丸」から生まれた名前です。何をしても良い、何もしなくても良い、いつもと違う場所（空間）でいつもと違う時間を過ごしていただく場所です。社会参加が苦手な方やその家族に、誰かと出会い、つながって、何かを発見してもらえ場所になってほしいと願っています。会場は、アトリエ・現代美術館、他です。月1回開催します。



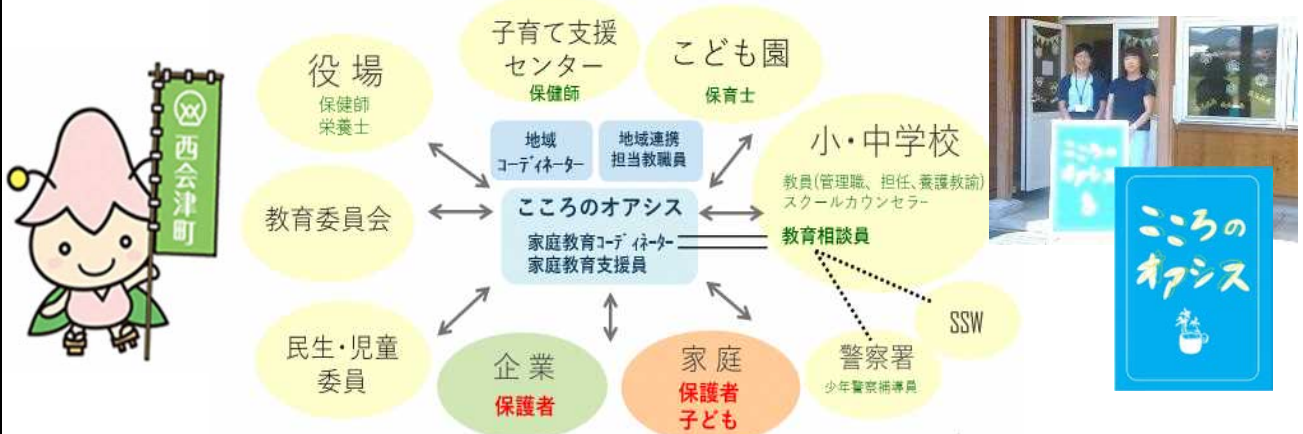
成果と今後の展望

活動を通して、地域の人たちとのつながりが広がり、「子育てに悩んでいるけれど、どこに相談したらよいかわからない」という母親たちの窓口になっています。当初、少人数だった「リースの会」も、今では約20名が参加しています。

不登校の子や親御さんにつながるパイプができ、登校しなくても充実した時間と安心して過ごせる環境を保障する社会の実現を願いながら、活動を続けていきます。



西会津町家庭教育相談室 「こころのオアシス」



西会津小学校1階にある家庭教育相談室「こころのオアシス」では、子育てや家庭教育に関する悩みなどたくさんの保護者の皆様から相談をお受けしております。最近では、休み時間の子どもたちの居場所としての活用が増えてきており、令和3年度は4月から現在までのべ270名（子ども220名、大人50名）の方が、相談や面談（気軽なおしゃべりもOK）の目的でご利用になりました。

また、西会津小・中学校はもとより、こども園や子育て支援センター等の関係機関をつなぐハブ的な役割も果たしており、地域にとってなくてはならない存在となっています。

活動拠点を置く市町村

福島県耶麻郡西会津町

活動開始年月

2017年9月

活動範囲

西会津町内全域：人口5,859人（2021年11月1日現在）

構成員

2人（家庭教育コーディネーター1人、家庭教育支援員1人）

活動形態

保護者への学びの場の提供 地域の居場所づくり 訪問型家庭教育支援
その他（学校生活でつまずきがちな子どもの居場所づくり）

活動対象

乳幼児 小学生（低学年） 小学生（中学年） 小学生（高学年）
中学生 高校生以上 の子どもを持つ保護者に対する活動を実施

活動の目的・趣旨

- 急激な社会環境の変化に伴い、家庭と地域、親同士のつながりが希薄になっていく中で、子育てに悩む保護者が不安を抱えたまま孤立しないよう、あらゆる相談に丁寧に応じ関係機関と緊密に連携しながら継続的に支援する。
- 家庭の教育力の向上を目指し、子育てに関する講座や親子で楽しめるイベントを通して、保護者目線の学習機会の提供に取り組む。
- 仕事で忙しい保護者に対して、就労先の企業を訪問し子育てに関する情報提供や相談室の周知に取り組む。

主な活動内容

☆気軽に入れる家庭教育相談室の運営☆

小学校内に設置された家庭教育相談室「こころのオアシス」において“じっくり聞いてしっかりつなげる”をモットーに児童・生徒や保護者、地域の方の相談に丁寧に応じ、関係機関と連携しながら相談者の不安解消や継続的な支援につなげています。



☆保護者への学習機会の提供☆

家庭教育講座や小学校見学ツアーを開催し、保護者への情報提供を行っています。



☆親子参加型イベントの企画運営☆

親子で楽しめる音楽コンサートや親子フリーマーケットを開催しています。



☆企業訪問☆

仕事で忙しい保護者の就労先に出向き、子育てに役立つ出前講座の開催や相談室のPRを実施しています。



☆食育活動☆

町と連携して「レシピコンテスト」を開催しています。また、家庭における食生活習慣の改善に向け、小中学校の養護教諭・栄養教諭と定期的に会議を行い、子どもたちへの指導をはじめ、保護者の方にも町のケーブルテレビや動画サイトを活用するなど啓発に努めています。



活動の成果と今後の展望

- 悩みや不安を抱えた保護者が立ち寄りやすく地域に根差した親しみやすい相談室として定着しつつあり、相談室が情報共有の場となることで、関係者同士の連携がより円滑になり、課題解決につながっています。
- 学校生活でつまずきがちな子どもの居場所としても活用されています。
- 多くの家庭において笑顔で子育てができるよう、家族に寄り添った支援活動を積極的に行うことで相談者の課題解決につながり、家庭や地域の教育力の向上に寄与しています。
- 保護者目線の学習機会の提供や、様々なイベントの企画運営を通して、家庭教育への関心や支援の輪が広まる活動に寄与しています。
- 子どもたちの食生活や生活習慣の改善に向けて、小中学校の養護教諭や栄養教諭と連携をさらに強めます。

五霞町家庭教育支援チーム

ごかまち かていきょういくしえんちーむ

令和元年度に発足した五霞町家庭教育支援チームは、子育て経験者で、読み聞かせや地域で様々なボランティアなどの活動をしている家庭教育支援員と教育委員会生涯学習グループの事務局で構成しています。

主な活動は、次年度小学校に入学する子をもつ全ての家庭を訪問して、小学校入学に向けての相談対応や情報提供、絵本のプレゼントをしています。

また、五霞町に誕生した全ての赤ちゃんと保護者に絵本の読み聞かせや絵本のプレゼントをするブックスタート事業にも取り組んでいます。

子育てに悩みを抱える保護者や相談できる人が近くにいなくて孤立しがちな保護者等に寄り添いながら温かな関わりを続け、子どもたちの健やかな成長を見守っています。



【五霞町家庭教育支援チーム】

チーム・活動の体制

◇活動開始年月：令和元年（2019年）11月

◇活動拠点：茨城県五霞町

◇活動範囲：町内全域（人口約8,300人）

◇チームのメンバー：13人

家庭教育支援員9人（元教員1人，元保育士2人，主任児童委員2人，元児童館館長1人，子育て経験者3人）

町教育委員会事務局4人

◇連携機関等：幼児教育施設，小学校，公民館，保健センター

五霞町イメージキャラクター
「ごかりん」



活動の対象

妊婦とその家族

■ 乳幼児期

■ 小学生

■ 中学生

高校生以上

の子供を持つ保護者・家庭

その他（ ）

活動場所

幼稚園

保育所

小学校

■ 中学校

高等学校

■ 社会教育施設

福祉施設

■ 保健センター

企業

■ 家庭（訪問等）

オンライン

その他（ ）

訪問型家庭教育支援～就学前の全戸訪問からつなぐ～

【就学前の全戸訪問の目的】

- ・家庭教育と保幼小接続の一体的な推進
- ・課題（困り感）のある家庭の早期発見
- ・家庭教育支援体制の構築→保護者への支援を通して子どもの育ちと主体的な学びを支える

説明・調整

- ・就学时健診時の講話と説明
- ・アンケート実施
- ・訪問日程調整確認

家庭訪問

- ・アンケートをもとにした情報提供
- ・町や県が作成した家庭教育支援資料の配付
- ・入学お祝い「絵本」のプレゼント
- ・傾聴を基本とした家庭教育支援員による相談対応
- ・気軽に相談しやすい地域のお母さんの役割

つなぐ

幼児教育施設
小学校へ

継続支援へ

関係機関へ

全戸訪問の3年間の実績

- ・令和元年度 74件
- ・令和2年度 42件
- ・令和3年度 52件
- 合計 168件
- ※3年間 100%面会
- ※継続支援 7件
(保護者の希望3件+
配慮を要する家庭4件)

支援を受けた方の声・感想

- ・入学前の心構えとなり、小学校への気持ちの切替えができました。
- ・心配だらけで涙ながらにお話しさせていただきましたが、不安に思っていることを聞いていただき心が軽くなりました。
- ・外での短い時間でしたが、色々細かいことを聞いていただきよかったです。とても話しやすい方々だったのでたくさん話してしまいました。



ブックスタート事業 保健福祉部局との連携

五霞町ブックスタートは、令和3年度からよちよち相談（7から9ヶ月の赤ちゃんと保護者）時の機会に始めました。家庭教育支援員が、絵本をひらく楽しい「体験」と「絵本」をセットでプレゼントしています。抱っこぬくもりの中で絵本を読んでもらう心地よさや嬉しさを「すべての赤ちゃん」に届けています。ここでの家庭教育支援員と保護者の関わりが、就学前の全戸訪問へとつながり、保護者へ安心感や親近感を与え、相談しやすいゆるやかな関係が築けています。



成果と今後の展望

- ・**全戸訪問**→就学前の親子の関わりや幼児教育と小学校教育とのつながりへの理解、困ったときに気軽に相談できる場所があることの周知、保幼小の円滑な接続のための情報提供につなげている。
- ・**継続支援**→課題（困り感）のある家庭を小学校入学後も継続支援することで保護者の学校への不満や不安を軽減し、子どもの学習環境の改善につなげている。
- ・**ブックスタート**→母子保健（健診受診率の向上）、子育て支援（読み聞かせの大切さへの理解）につなげている。

学校・園・家庭・地域から信頼される取組みを継続していくことで、安心して子育てできるまちづくりの一助となり、子どもの健やかな成長を支えていきたい。

県東親育ちスマイルネット

「県東親育ちスマイルネット」は、2007年に設立し、栃木県の県東部に7つの支部をおき、「親学習プログラム」等を活用した親同士のつながり（友達・仲間）づくりを目的に活動しています。

子育ての心配事や悩みについて、ワークショップを通して楽しく学び合い、子育てに必要な知識やスキルを身に付けることができるよう支援しています。

☆設置支部

真岡支部・二宮支部
益子支部・茂木支部・市貝支部・芳賀支部
那珂川支部

☆活動範囲

芳賀地区（真岡市・益子町・茂木町・市貝町・芳賀町）
南那須地区（那珂川町）

☆会員

在籍数 61名

※栃木県教育委員会主催「家庭教育支援プログラム指導者研修」の修了生、または、それに準ずる者をもって構成している。県との共催によるフォローアップ研修会を毎年実施し、スキルアップの機会を設けている。



【R3年度 家庭教育支援プログラム（親学習プログラム）指導者のフォローアップ研修会の様子】

☆活動の対象

- 乳幼児期
- 小学生
- 中学生
- 高校生以上

の子供を持つ保護者・家庭



☆活動場所

- 幼稚園
- 保育所
- 小学校
- 中学校
- 高等学校



○主な活動内容（ワークショップによる学びの場の提供）

☆就学時健診における親学習

「わが子自慢」・「わが子との思い出」・「入学前のあれこれ」・「早寝早起き朝ご飯の習慣」等について語り合い、これからはじまる小学校生活に向けて希望が持てるような支援を行う。「親学習プログラム」のエピソード等を活用し、互いの考えを共有する。また、気軽に相談したり話をしたりすることのできる友達・仲間づくりの場を提供する。



参加者（保護者）の声・感想

知らない方とも打ち解け、いろいろな意見が聞けてよかったです。共感できたことがたくさんありました。そして、人生の先輩であるスマイルネットの皆様の愛情を感じました。

☆幼・保・小における家庭教育学級・子育て講座

「子育ておしゃべり会」を実施し、身近な話題や子育ての課題、悩み等をおしゃべりしながら互いに知恵を出し合い楽しく学ぶ機会を提供する。

小学1年生の保護者を対象に「読み聞かせ体験」を実施し、子どもの心を育てる本との出会いについて考える場を提供する。

「思春期の子どもの対応について考える」など、身近な出来事をもとにし、家庭や地域の実情に合ったプログラムを展開する。



参加者（保護者）の声・感想

大人になって読んでもらう体験をしたことがなかったので、お話を聞く子どもの立場で本を楽しめました。学んだことを生かして子どもに本を読んであげたいです。

○その他の活動内容

☆高等学校における親学習

高等学校（総合学科）において、外部講師として活動。

「未来の親となる高校生向け親学習プログラム」を展開する。シトラスリボンづくりの講習を通して、子どもを取り巻く環境や誹謗中傷・偏見のない社会づくりについて考える場を提供する。



参加者（高校生）の声・感想

新型コロナウイルス感染症による差別・誹謗中傷・死への恐怖や不安などについて考え、これまでの自分の考えを見直すことができてよかったです。

○成果と今後の展望

子育て世代の方々は、親同士が子育ての悩みや不安について語り合い、和やかに学び合える場を必要としている。今後も一人で悩んだり、一人で抱え込んだりせず、明るい笑顔のある子育てができるよう、学びの場を提供し、子育ての応援をしていきたい。

また、「未来の親となる高校生」に向けて親学習を広め、子育てに望ましい環境づくりや、安心して子育てができる地域づくりについて考える機会を増やしていきたい。

安中市家庭教育支援チーム



ビーイング

NPO法人
ビーイング

🌱 ビーイングとは

地域の中には、様々な要因により学校に行けなくなったり、そのまま進路が決まらずひきこもり状態になってしまったりしている方がいるという現実があります。ビーイングは、このような方々の《外に出ていくきっかけ作りのお手伝い》ができないのかという思いから、発足したグループです。私たちは、地域にお住いの自力では解決できない困難を抱えているご本人、ご家族と一緒に、今、何ができるのかを考え、伴走しながら社会復帰につながるお手伝いをしています。

🌱 チーム・活動の体制

- ◆活動開始年月：2015年6月
- ◆活動拠点：群馬県安中市
- ◆活動範囲：市内全域（人口約5.5万人）、富岡市（2021年6月から本格化）
渋川市（2020年9月から活動展開）
- ◆チームのメンバー：13人
〔不登校・ひきこもり担当4人、民生児童委員1人、元主任児童委員1人〕
〔元学童クラブ指導員2人、社会福祉士1人、子育て経験者4人〕
- ◆連携機関等：安中市役所福祉課、子ども課、社会福祉協議会
ひきこもり支援センター、若者サポートセンター、小学校
中学校、高等学校、適応指導教室、発達障害者支援センター等

🌱 活動の対象

- 妊婦とその家族
- 乳幼児期 小学生 中学生 高校生以上
の子供を持つ保護者・家庭
- その他（市民）

🌱 活動場所

- 幼稚園 保育所 小学校 中学校 高等学校
- 社会教育施設 福祉施設 保健センター等 企業
- 家庭（訪問等） オンライン その他（コミュニティハウス）

🌿 活動内容



個別相談

★訪問支援 (アウトリーチ)

当事者本人及びその家族に寄り添い、信頼関係を構築しながら、支援機関の紹介や外出を促します。

ビーイングでは

地域の人々が地域を支えることをコンセプトに、3市在住の地域メンバーが支援にあたります。毎月講師を招き、心理・地域福祉等の勉強をしています。

★居場所の提供

自宅以外の安心・安全な場所を地域内に確保し、定期的に提供を行っています。市民にも広く開放し交流の場とします。
(コミュニティーハウス)

一人一人に 寄り添った支援

★社会参加のための 自立支援

ハッピーファーム（農園）での作業や収穫した野菜を使ってのランチづくり、ボランティア活動等を通して、就学・就労を目標とした支援を行っています。

★家族会の運営

家族の方を対象に、家族会、家族セミナー、交流会を企画・運営し、同じ悩みを抱える複数家族のつながり深め、情報提供を促します。



ハッピーファームでの作業

★講座等の開催

生活に生かせるカウンセリング講座、講演会、ペアレントトレーニング講座等も行っています。
(市民対象)

地域・社会へと つなげていきます

《参加者の声》

ビーイングの皆さんと話す元気になり、支えてもらっています。信頼できるスタッフの方々に相談できるのは、娘にとっても心強いことと思います。ボランティアでここまでしてくださるとは！

扉を開けてくれたビーイングに感謝の気持ちです。毎朝、送り出す娘の姿を見て、やっとここまで来られたという思いです。

「大きな樹の下の みんなのおうち」 OPEN

令和3年10月、コミュニティーハウスとカフェ棟がオープンしました。カフェ棟は、ひきこもりや不登校の方々が社会参加に向けて経験を積む場にするため厨房も設けました。



🌿 成果と今後の展望

- ◆当事者及びその家族に対して、一人一人に寄り添った伴走型支援を行い、地域社会における当事者の自己実現を援助。
- ◆令和2年度の実績・・・家庭訪問117件、居場所の利用114件、相談111件、電話・メールでの相談1105件
- ◆今後は、カフェの運営を中心とした就労プログラムにも力を入れていきたいと考えています。専門・関係機関との連携を図りながら、粘り強く支援を続けていきます。



アピールポイント！！

学習支援「ういんぐ」

生活困窮家庭等の小学生から高校生を対象として毎週土曜日に学習支援をしています。一人ひとりに寄り添いながら個別学習を行い、子どもの居場所にもなっています。

- 子ども一人ひとりの発達状況に合わせた学習を行い自己肯定感を育てています。
- 中学生の受験対策を12月から2月まで毎週日曜日に行っています。
- 学期に1回、食を通して生きる力を身につける為に調理実習を行います。
- 保護者、子ども達を対象として元教育相談員が相談支援を行っています。
- 「ういんぐ」に登録されている家庭に家庭訪問支援を行っています。



家に帰ってママと一緒に作ろう

その他の活動内容

キャロットひろば

- ・乳幼児の親子を対象として野菜収穫体験を年2回開催しています。
- ・公民館で、七夕お話し会・クリスマスお話し会を開催し親子で季節の物を工作したり、紙芝居・大きな絵本の読み聞かせを行っています。



親の学習

- ・就学時健診、中学校の入学説明会時保護者を対象に、家庭教育アドバイザー自作のプログラムで「親の学習」講座を行っています。



クールシェア&ウォームシェア

- ・小学生を対象として、夏休み、冬休みに宿題などの学習、体験学習、科学あそびをしたり、手作り弁当も提供しています。



託児

- ・「親の学習」時又は市の講座にて託児依頼時に行っています。

フードパントリーキャロット

- ・一人親家庭を対象として食料支援を奇数月に開催しています。



フードパントリーの皆様へ定期的に開催頂きありがとうございます。野菜や常備品(保冷品)があるととても助かります。コロナ禍の皆様温かいご支援が続きたいです。これからもよろしくお願い致します。

成果と今後の展望

- 「成果」
- キャロットひろばでは地産地消の野菜収穫体験をしたり、食育を重視して採りたての新鮮野菜ランチを提供することにより、野菜そのものの味を体感でき、親子の笑顔と感謝の言葉をいただきました。
 - 親の学習では、チームで取組み、アドバイザー自身も孤立せず仲間と共に支援ができた。毎年800人以上の保護者と関わり、アンケート結果でも90%以上「よかった」との感想をいただきました。
 - 子ども達の学習支援を通して、ひとり親家庭など、過酷な状況の中でも仕事と子育てをがんばっている親とつながり、関係を深めることができました。

「今後の展望」

- 関係機関とより一層連携し、孤立しがちな親へ一人ひとりに寄り添った活動を行っていきたい。